

事務事業コード	776112	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 43 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 同条例施行規則
コード	776112				
関連計画	霧島市教育振興基本計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成23年度実績				
図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に移動図書館車での図書資料の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。 巡回箇所79箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)			事務事業の概要と同様				
			平成24年度計画				
		前年度と同様					
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)	
ア	巡回箇所	箇所	77	79	82	82	
イ							
ウ							
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)	
ア	市民	人口	人	127,487	127,365	129,098	129,328
イ							
ウ							
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)	
ア	欲しい情報を市民が得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	9,750	9,347	9,400	9,500
イ		貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	43,631	43,278	44,000	45,000
ウ							
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)	
ア	地区に合った学習を行う環境が整う	住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考えている市民の割合	%	28.7	27.6	32.0	
イ							

(2) 事業費 単位:千円

	23年度(決算)	24年度(予算)	
予算額	当初予算額	3,741	3,700
	補正予算額	154	0
	予算合計	3,895	3,700
決算額	国庫補助金	0	
	県支出金	0	
	地方債	0	
	その他	0	
	一般財源	3,839	
支出合計	3,839		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか?	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか?
昭和33年に市民の学習環境を充実させるため国分市立図書館が設置され、その後、昭和43年に移動図書館車を購入し、巡回が始まった。	インターネットなどの新たなメディアを通じ情報の取得が可能となっており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。合併を機に巡回箇所が増えた。
③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか?	④ この事務事業に対する議会から出された意見
小学校では月1回の巡回を児童たちが楽しみに待っている。	特になし

事務事業 コード	776112	事務 事業名	移動図書館運営事業				担当部	教育部
							担当課	国分図書館

単位:千円	平成23年度 (決算)			平成24年度 (当初予算)			平成25年度 (見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金	3,092		3,092	3,109		3,109	3,109		3,109
8 報償費									
9 旅費									
10 交際費									
11 需用費	469		469	469		469	470		470
消耗品費									
燃料費	285		285	320		320	320		320
食料費									
印刷製本費									
光熱水費									
修繕料	184		184	149		149	150		150
12 役務費	127		127	92		92	95		95
通信運搬費									
広告料									
手数料									
保険料	127		127	92		92	95		95
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利子・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費	151		151	30		30	50		50
28 繰出金									
計	3,839		3,839	3,700		3,700	3,724		3,724

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	3,839		3,839	3,700		3,700	3,724		3,724
計	3,839		3,839	3,700		3,700	3,724		3,724

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成 23 年度	当初予算	3,741 千円		
	補正予算	154 千円		
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		流用 (2月)	154
予算合計	3,895 千円			

平成23年度 財源内訳の「その他」の内訳
参加費等の事業実施のための収入説明

事務事業コード	776112	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に移動図書館車での図書資料の巡回サービスを実施することは、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民の生涯学習の支援として市が実施すべき事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	市民が欲しい情報を得られるように学習環境を整備する必要があることから、対象・意図は適切である。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	現在、市内79箇所を巡回している。工夫して巡回箇所を増やせば、成果の向上余地もある。しかし、現在の車両、人員体制では精一杯である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	市民が、図書資料等を利用して情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費のほとんどは燃料費、車両修繕費用、車検費用、運転手の人件費と移動図書館車の維持・運行のための経費である。現時点においてはこれ以上の削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	ただ単に本を積み込んで、巡回するだけではなく、巡回先の利用者の読書傾向等を加味した図書資料の積載が必要である。現行、事業に要する人件費は、少人数で移動図書館用図書の見直し、積み込み、運行等を行っており、削減は難しい。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っていないか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	移動図書館も全ての市民が利用可能である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他図書資料の利用については無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	巡回先の利用者の読書傾向等を加味した図書資料の積載などに心がけ、利用者ニーズに配慮した運営に努めた。また、巡回箇所を工夫したりして利用者数の増加を図りたい。	

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続 ⇒(3) 具体的な改善計画は不要	
(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成24年度の取組み概要及び期待される効果 ・貸出冊数や利用者数を参考にし、利用者等を増やすために貸出場所(巡回先)が適切か検討する。 ・移動図書館と緑陰読書やおはなし会等の読書推進事業との連携の充実を図り、利用者等の増加につなげる。	② 平成25年度に取り組むべき具体的な内容 それぞれの巡回先の市民の読書傾向を見て、図書資料を選択し、利用者や貸し出し冊数が増えるよう努める。また、巡回先の開拓等を行う。

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則
コード	776114		関連計画	霧島市教育振興基本計画	

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成23年度実績			
霧島市に関連する郷土資料の収集、整理、保管を行う。 また、鹿児島県が輩出した人物等に関する書籍資料や地誌等を収集、整理し、閲覧、貸出等に供する。			事務事業の概要と同様			
			平成24年度計画			
		前年度と同様				
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	収集した郷土資料冊数	冊数	357	281	300	300
イ						
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	市民	人口	127,487	127,365	129,098	129,328
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	郷土資料に触れる機会を増やし、ふるさとを誇りに思う気持ちや愛する心を育てる。	冊	1,335	1,075	1,100	1,200
イ						
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	地区に合った学習を行う環境が整う。	%	28.7	27.6	32.0	
イ						

(2) 事業費 単位:千円

	23年度 (決算)	24年度 (予算)
予算額	当初予算額	153
	補正予算	0
	予算合計	153
決算額	国庫補助金	0
	県支出金	0
	地方債	0
	その他	0
	一般財源	151
	支出合計	151

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか?	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか?
昭和33年の国分図書館設置と同時に郷土の歴史的、文化的資料を後世に引き継ぐために事務事業が始まった。	平成17年の合併による霧島市の誕生に伴い、旧1市6町を対象に、歴史的、文化的資料の収集が始まった。
③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか?	④ この事務事業に対する議会から出された意見
特になし	特になし

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成23年度(決算)			平成24年度(当初予算)			平成25年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金									
8 報償費									
9 旅費									
10 交際費									
11 需用費	151		151	153		153	153		153
消耗品費	143		143	143		143	143		143
燃料費									
食料費									
印刷製本費	8		8	10		10	10		10
光熱水費									
修繕料									
12 役務費									
通信運搬費									
広告料									
手数料									
保険料									
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	151		151	153		153	153		153

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	151		151	153		153	153		153
計	151		151	153		153	153		153

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成23年度	当初予算	153千円		
	補正予算			
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		第8回	
予算合計	153千円			

平成23年度 財源内訳の「その他」の内訳
参加費等の事業実施のための収入説明

事務事業コード	776114	事務事業名	郷土資料収集事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土に関する資料を収集、整理、保存し、市民がこれを利用することで郷土への理解と愛着を深めることができ、地域についての学習を行う環境整備に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土資料の利用は市民はもとより図書館利用者全員を対象としており、広く誰でもが利用できる。図書館法にも郷土資料を収集し、利用に供することは図書館奉仕の一部であると記してある。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	郷土資料の利用者は市民を中心に学習意欲のある不特定の方々である。また、館内の利用は誰でも自由にでき、特定、限定できない。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	継続した資料収集や資料配置、資料展示方法などを改善することにより、成果の向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	統計的な地域情報は継続して収集、保存する必要がある。郷土の歴史的、文化的資料を次世代に引き継ぐことができなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費は、消耗品(資料代、資料保存用品等)、資料製本代であり、削減の余地はない状態である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	郷土資料は地理、歴史等を含む広範な分野にまたがっており、資料収集等に関しては専門的な知識が必要とされる場面もある。しかし、専門的な知識を有する者はおらず、兼務で実施しているのが現状である。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っていないか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	収集、整理、保存された郷土資料は、全ての市民が利用可能であり、図書館法により図書館資料の利用に関しては無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	郷土資料は禁帯出(原則貸し出しができない)の図書資料が多い。このため、禁帯出本を市内の図書館、図書室間で相互に貸借し、館(室)内で閲覧ができるように工夫した。今後は来館者が利用しやすい環境づくりに努めたい。	

3 今後の方向性<PLAN>

(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続 ⇒(3) 具体的な改善計画は不要	

(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか

① 平成24年度の取組み概要及び期待される効果	② 平成25年度に取り組むべき具体的な内容
郷土に関する出版情報を的確に把握し、必要なものを確実に収集する。 郷土資料コーナーの表示を工夫するなど利用促進に努め、来館者が利用しやすい郷土資料コーナーとする。	夏休みの学習課題等の参考資料として、郷土資料を活用してもらうために、資料配置等を工夫し利用促進を図る。

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	1	学習環境づくり		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則
コード	776111				
関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成23年度実績			
・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な資料の整備に努め、幅広い年齢層の方々に応じた資料の提供を行う。 また、未所蔵資料に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等にも目を向けながら購入を進めたり、相互貸借での対応で利用者の要求にこたえ、図書資料の収集、整理、提供等を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行う。 ・貸出冊数…5冊以内 ・貸出期間…15日以内 ・貸出対象者…市内に住んでる方、市内の学校に通学している方、市内の職場に通勤している方			事務事業の概要と同様			
			平成24年度計画			
		前年度と同様				
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)
ア	入館者数	人	285,197	281,403	282,500	283,000
イ	蔵書冊数	冊	381,823	392,996	398,000	403,000
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)
ア	市民	人口	127,487	127,365	129,098	129,328
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)
ア	欲しい情報を市民が得られる	人	112,882	112,714	114,000	115,000
イ		冊	388,906	387,737	388,000	389,000
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	25年度(見込)
ア	地区に合った学習を行う環境が整う	%	28.7	27.6	32.0	
イ						

(2) 事業費

単位:千円

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

予算額	当初予算額	23年度(決算)	44,042	24年度(予算)	48,736	① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか? 昭和33年に市民の学習環境を充実させるため、国分市立図書館が設置された。	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか? インターネットなどの新たなメディアを通じ情報の取得が可能となっており、個人一人ひとりの情報ニーズが多様化している。活字離れが進んでいると言われるが、根強い読書、書籍ファンも多い。
	補正予算額		-154				
	予算合計		43,888		48,736		
決算額	国庫補助金		0			③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか? 利用者より、図書館(室)の蔵書を増やしてほしい、開館時間を早めて欲しい、開館時間を長くしてほしい、学習室の席を増やしてほしい等の蔵書、運営方法、施設改善等の要望がある。	④ この事務事業に対する議会から出された意見 特になし。
	県支出金		0				
	地方債		0				
	その他		68				
	一般財源		43,182				
支出合計		43,250					

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成23年度(決算)			平成24年度(当初予算)			平成25年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金	9,593		9,593	9,607		9,607	9,607		9,607
8 報償費									
9 旅費	10		10	45		45	17		17
10 交際費									
11 需用費	12,666		12,666	17,437		17,437	16,990		16,990
消耗品費	9,001		9,001	12,950		12,950	12,950		12,950
燃料費									
食料費									
印刷製本費	30		30	38		38	40		40
光熱水費	3,635		3,635	3,832		3,832	3,900		3,900
修繕料				617		617	100		100
12 役員費	850		850	848		848	848		848
通信運搬費	802		802	798		798	798		798
広告料									
手数料	6		6	6		6	6		6
保険料	42		42	44		44	44		44
13 委託料	18,093		18,093	18,921		18,921	18,921		18,921
14 使用料及び賃借料	861		861	753		753	702		702
15 工事請負費									
16 原材料費	20		20	20		20	20		20
17 公有財産購入費									
18 備品購入費	1,157		1,157	1,100		1,100	1,300		1,300
19 負担金補助・交付金				5		5	5		5
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	43,250		43,250	48,736		48,736	48,410		48,410

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他	68		68	71		71	71	
一般財源	43,182		43,182	48,665		48,665	48,339		48,339
計	43,250		43,250	48,736		48,736	48,410		48,410

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成23年度	当初予算	44,042 千円		
	補正予算	-154 千円		
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		流用(2月)	▲154
予算合計	43,888 千円			

平成23年度 財源内訳の「その他」の内訳	
【内訳】 電話使用料(単人図書館) 2,540円 雑入 図書館資料コピー代(国分・単人図書館) 65,490円	
参加費等の事業実施のための収入説明	

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A 目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	多種多様な図書資料等を図書館(室)が収集、整理、保存等を行い、市民に利用してもらうことは、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境の整備に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関である。地域の情報の拠点、読書施設、図書資料等各種情報の保存機関、生涯学習の支援施設等として市が実施すべき事業である。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	全ての市民が図書館サービスの対象であり、市民と図書資料を対象としている。利用者へ充実した情報提供や利便性の向上を図ることは妥当である。
B 有効性 評価	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	様々な資料構成の中から、図書の配置方法についても工夫し配架を行う。また、リクエスト等を受けることでどのような要求があるのか把握でき、それに伴い資料の購入、相互貸借を行う。また、広報誌・図書館だより等を活用して図書の紹介や行事案内を通じて利用拡大を図る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	市民が、図書資料等を利用して情報等を得られなくなり、教養と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C 効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	市民の多種多様な要望に応え、現在の運営を維持していくためには、削減は困難である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	各事務内容を検討し、無駄と思われる部分を省き、効率のよい部分改善することで多少の余地がでてくる可能性もあるが、利用者にとっては便利なネット検索、ネット予約等のIT化も人の関わりが必要であり、経費、業務時間等の削減は困難である。
D 公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っているか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館は全ての市民が利用可能であるので公平である。また、図書館法第17条の規定により入館料その他図書資料の利用については無償となっている。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある		入館者数、貸出冊数は前年度と比較し、若干減少しており、貸出者数については、前年度とほぼ同数であった。市民の関心、意欲を喚起するような図書資料の購入、館内の雰囲気づくりなど、さらに努力していく必要がある。

3 今後の方向性<PLAN>

(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続 ⇒(3) 具体的な改善計画は不要	

(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか

① 平成24年度の取組み概要及び期待される効果	② 平成25年度に取り組むべき具体的な内容
月ごとの特設コーナーなど館内の展示を工夫するとともに、ブックスタート開催時や移動図書館の巡回時に図書館利用を促す。また、横断検索システムについても、広報誌や図書館だより、ホームページ等により、今後も広報に努め、より多くの住民の方へ周知を行う。ニーズにあった運営を行うために、未所蔵資料に対する購入希望状況、予約の状況等の数値的なものを活用するとともに、図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等を参考にして図書資料の収集を進めていく。市内各市立図書館(室)、学校図書館及び読書活動関係者等とは既に情報交換など連携は確立しているが、今後、他団体との連携等も模索していきたい。	図書資料の選定にあたっては、図書館にない資料(本等)の購入希望状況、予約の状況等の数値的なものを活用するとともに、図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等を参考にした図書資料等の確保を図る。市民が利用しやすい図書館、図書室づくりを進める。

事務事業コード	776110	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

4. 2次評価

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準 (1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 記述不足で分かりにくい <input type="checkbox"/> 一部記述不足のところがある <input checked="" type="checkbox"/> 十分に記述されている 	② 評価の客観性水準 (2次評価を行った後に総合的に判断して選択) <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 客観性を欠いており評価が偏っている (事務事業の問題点、課題が認識されていない) <input type="checkbox"/> 一部に客観性を欠いたところがある <input checked="" type="checkbox"/> 客観的な評価となっている
---	---

(2) 2次評価		1次評価	2次評価
A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	② 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	③ 対象・意図の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある
B 有効性	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地はない (十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地はない (十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない
	⑥ 類似事業との 統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の 削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の 適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
総 括	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある

(3) 2次評価結果の理由 ※上記総括で「見直す必要がある」と評価した項目について理由を記載する。

A 目的妥当性	
B 有効性	市民が希望する図書を充実させ、また利用しやすい環境づくりを行うことで、成果向上の余地がある。
C 効率性	
D 公平性	

(4) 評価結果にもとづく今後の方向性	1次評価	2次評価
[目的妥当性①②、有効性⑥の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 廃止
[目的妥当性①②、有効性⑥の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 休止
[目的妥当性①③の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 目的再設定
[有効性⑤の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携	<input type="checkbox"/> 事業統合・連携
[有効性④の結果] ⇒	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)
[効率性⑦⑧の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)	<input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)
[公平性⑨の結果] ⇒	<input type="checkbox"/> 公平性改善	<input type="checkbox"/> 公平性改善
	<input type="checkbox"/> 現状維持・継続	<input type="checkbox"/> 現状維持・継続

(5) 具体的な改善計画 * (4)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか

① 1次評価結果にもとづく平成25年度に取り組むべき具体的な内容 図書資料の選定にあたっては、図書館にない資料(本等)の購入希望状況、予約の状況等の数値的なものを活用するとともに、図書の出版状況(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)等を参考にした図書資料等の確保を図る。 市民が利用しやすい図書館、図書室づくりを進める。	② 2次評価を踏まえ、①に追加すべき取組み内容 特になし
---	--

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
政策名	4	育み磨きあうまちづくり		担当課	国分図書館
施策名	5	学習機会の充実		グループ	管理図書グループ
基本事業名	2	学習活動の推進		電話番号	45-5111
				内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
	款	10	教育費		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S 33 年度~)
	項	6	社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(~)	
	目	8	図書館費	根拠法令・条例等	図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律 霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行規則
コード	776111				
関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画				

1. 現状把握 (1)事務事業の目的と指標 <Do>

① 手段 (事務事業の概要)		主な活動	平成23年度実績			
多様な読書行事等への参加を通して読書への興味、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。 【開催行事等】 ブックスタート、おはなし会、おはなしの部屋、緑陰読書、子ども読書の日、植物採集教室、昆虫採集教室、からくり絵本教室、植物名付け会、司書研修会、学校司書と読書ボランティアとの交流会、おはなし王国、図書館だより等の作成、配布等			事務事業の概要と同様			
			平成24年度計画			
		前年度と同様				
② 活動指標 (事務事業の活動量)		単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	行事の開催回数	回	237	262	270	270
イ						
ウ						
③ 対象 (誰、何を対象にしているのか)	④ 対象指標 (③対象の大きさを表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	市民	人	127,487	127,365	129,098	129,328
イ						
ウ						
⑤ 意図 (対象をどうしたいのか)	⑥ 成果指標 (⑤意図の達成度を表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	できるだけ多くの市民に読書に興味を持ってもらう	人	6,859	7,242	7,300	7,400
イ						
ウ						
⑦ 結果 (どんな結果に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標 (⑦結果の達成度を表す指標)	単位	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (見込)	25年度 (見込)
ア	自身のテーマに沿った学習機会が得られる	%	未把握	15.1	10.0	
イ	”	%	24.2	22.8	12.0	

(2) 事業費

単位:千円

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

予算額	当初予算額	23年度 (決算)	586	24年度 (予算)	685	① この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始されたのか? 多くの市民に読書に興味をもってもらい、学習活動を推進するため、昭和33年に図書館設置とともに開始された。	② 事務事業を取り巻く環境は、開始時期又は5年前と比べてどう変わったのか? 紙媒体の情報よりインターネットなどの新たなメディアを通じた情報の取得が重要視されてきているが、やはり幼少時期から絵本や児童書に接することが見直されている。また、親子読書活動など本を通じた心のふれあいが、現代社会の中で重要視されてきている。
	補正予算額		0				
	予算合計		586		685		
決算額	国庫補助金		0			③ この事務事業に対して誰からどんな意見や要望が寄せられているのか? ブックスタートの取組は、保護者から好評を得ている。	④ この事務事業に対する議会から出された意見 平成19年第1回定例会「ブックスタートを全市的に取組んでほしい。」 平成22年第2回定例会「セカンドブック事業の実施を検討してほしい。」
	県支出金		0				
	地方債		0				
	その他		0				
	一般財源		583				
支出合計		583					

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

単位:千円	平成23年度(決算)			平成24年度(当初予算)			平成25年度(見込)		
	単独	補助	合計	単独	補助	合計	単独	補助	合計
1 報酬									
2 給料									
3 職員手当等									
4 共済費									
7 賃金									
8 報償費	49		49	49		49	49		49
9 旅費				3		3	3		3
10 交際費									
11 需用費	534		534	633		633	633		633
消耗品費	534		534	633		633	633		633
燃料費									
食料費									
印刷製本費									
光熱水費									
修繕料									
12 役務費									
通信運搬費									
広告料									
手数料									
保険料									
13 委託料									
14 使用料及び賃借料									
15 工事請負費									
16 原材料費									
17 公有財産購入費									
18 備品購入費									
19 負担金補助・交付金									
20 扶助費									
21 貸付金									
22 補償補填及び賠償金									
23 償還金・利息・割引料									
24 投資及び出資金									
25 積立金									
26 寄附金									
27 公課費									
28 繰出金									
計	583		583	685		685	685		685

財源内訳	国								
	県								
	地方債								
	辺地債								
	過疎債								
	合併特例債								
	その他								
一般財源	583		583	685		685	685		685
計	583		583	685		685	685		685

補助率	国								
	県								
補助基本額									

平成23年度	当初予算	586千円		
	補正予算			
	第1回		第5回	
	第2回		第6回	
	第3回		第7回	
	第4回		第8回	
予算合計	586千円			

平成23年度 財源内訳の「その他」の内訳	
参加費等の事業実施のための収入説明	

事務事業コード	776111	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

2 評価の部 <SEE>		評価	評価理由
A	① 政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は基本事業の意図(基本シートの結果)に結びつくか?	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	多様な読書行事等への参加を通して読書への興味を興し、併せて様々な学習への興味を喚起することは「自身のテーマに沿った学習機会が得られる」ことに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 ・この事業をなぜ市が行わなければならないのか? ・税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律により、読書推進を自治体が行うことが求められている。
	③ 対象・意図の妥当性 ・対象や意図を限定又は追加すべきか?	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある	市民を対象として、できるだけ多くの人に読書活動に興味を持ってもらうことを意図しており、適切である。
B	④ 成果の向上余地 ・成果指標の現状値をあるべき水準まで向上させることができるか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない(十分に成果が出ている) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	図書館(室)とボランティアグループ等が連携をとり、読み聞かせ、おはなし会等の活動の場を増やしたり、館内見学等の受け入れにより図書館が身近な施設と感じてもらい、おはなし会などに足を運ぶきっかけを作ることで成果の向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止又は休止した場合にどのような影響があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない	読書推進活動を廃止、休止した場合、読書離れが進み、教育と文化の向上に支障が出てくる恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 ・目的を達成するためには、この事務事業以外の手段はないか? ・類似事業との統廃合や連携を図ることにより成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input type="checkbox"/> 統合できない <input type="checkbox"/> 連携できない <input type="checkbox"/> 統合できる <input type="checkbox"/> 連携できる	(他に手段がある場合の事務事業名等)
C	⑦ 事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	事業費は、各行事等の報償費、旅費、消耗品費であり、これ以上の削減は難しい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して事務事業に係る業務時間を削減できないか? ・成果を下げずに職員以外の対応や委託をできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	必要最低限の企画、運営業務にしか職員は携わっておらず、ほとんどがボランティアの方々の協力を得て事業を実施しているものであり、業務時間の削減余地はない状態である。
D	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏っているか? ・受益者負担が公平公正になっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	読書推進事業の受益者は図書館の利用者、おはなし会等の参加者であるが、すべての市民を対象として呼び掛け、実施しているため、公平である。
総括	(1) 1次評価者(課長)としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直す必要がある C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直す必要がある	市内7カ所で開催している読書まつりの内容充実に向け、事前の周知方法等の改善に取り組む、多くの子どもたち、親子や一般の方々に参加してもらえるよう努めた。また、ブックスタートは、乳幼児期から本に触れることの大切さを認識してもらう機会となっており、保護者から好評を得ている。	

3 今後の方向性<PLAN>	
(1) 評価結果にもとづく今後の方向性	(2) 廃止又は休止すべきとした場合の理由
<input type="checkbox"/> 廃止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 休止 [目的妥当性①②、有効性⑤の結果] <input type="checkbox"/> 目的再設定 [目的妥当性①③の結果] <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 [有効性⑥の結果] <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上) [有効性④の結果] <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減) [効率性⑦⑧の結果] <input type="checkbox"/> 公平性改善 [公平性⑨の結果] <input type="checkbox"/> 現状維持・継続 ⇒(3) 具体的な改善計画は不要	
(3) 具体的な改善計画 ※(1)のチェック項目に対し、具体的にどのように取り組むのか	
① 平成24年度の取組み概要及び期待される効果 ブックスタートで配布する絵本を「じゃあじゃあびりびり」へ変更した。より乳児の関心が高まることを期待される。子どもから大人まで誰もが気軽に本と親しめるように、市内7箇所で開催している読書まつりの内容の充実を図る。	② 平成25年度に取り組むべき具体的な内容 小学生の社会科見学等の図書館利用、中学生の職場体験学習などを通じて図書館に親しむことにより、読書推進等につなげる。 ボランティアグループの活性化を図り、読書推進の取組みの充実に努める。